超まーじゃん娘!
SET.1

「やっほー♥
麻雀同好会へようこそ！」
「じゃ、さっそく始めよ？
強いって噂だけど
私だってすっごく強いからね～？
絶対負けないんだから！」

「もー！強すぎ！こんなに負けちゃうなんて初めて
はぁ～…。…約束したもんね。
私の全部…見せてあげる」
「…え？ど、どうして
あなたも脱いでるの
負けたのは私だよ？
う…っ。興味は、
無くは、無い、けど…

「うわ～…。
すごい…こんなになっちゃうんだぁ…
え？そりゃパパのは見たことあるけど、
こんなにおっきくは…。
ってもー！何言わせんの！」
「痛くないの？コレ…。
うひゃー！ピクンって動いた…！
え、えぇ？舐める…の？舌で…？
わ、わかった、やってみる…」

「ぺろ…っ…これで、良いのかな？
ん…さきっぽ、ツルツルなんだね…んむ…
あ、何か出て来た…れろ…変な味…」
「え？上手？
…えへへへ、そうかな。
そんなにきもちいいんだ、これ。
ぺろぺろ…れろっ♥」

「！ぷやっ！なにコレ…ッ？
ふぁ、あ、熱…ッ！」
「ひゃっ…！うわわ、まだ出るのー！？」

「ふぁあ…っこれ、せーえき…？
あんなに勢い良く出るんだ…
びゅーっ！って…びっくりしたあ…
口の中にも…ヌルヌル…」
「…え？最後まで？そ、そうだよ！
ここまでしちゃったら、もう…
ま、待って、こ、心の準備！
うう～…、よしっ！」

「それが、入っちゃうんだ…
私の中に…
だ、大丈夫！
怖くなんか無いもん！
だから、来て…」
「あなたになら、
私の全部、あげる…」

「あ…っ！あ！はぁ、はぁ、
へ、平気、へいきだから…っ
好きに動いて良いよ…っ！
あ、あ、うぁ！」
「はぁっ、はぁっ、あ、あ！あ！
そんなはげし…ふぁぁっ！
え、うん、いいよ、出して、
さっきみたいに、びゅーって
私の、なか…、あ！あっあっあっ
…あああーッ！！

「はっ！はぁ！はぁっ
はぁ…
あ、せーえき…
あったかい…♥
ふう…」
「全部、あげちゃったぁ…あはは♥
も～、しあわせそうな顔しちゃってぇー
えへへ…♥
…また、しようね？」

「あ、こんにちはお客様。
何か御用でしたらなんなりと…
えっ…私と麻雀勝負？」
「私、麻雀は得意じゃないんですが…
どうしても…？
うう…わかりました…。
お客様がそこまで言うんなら…はあ…」

「だから弱いって言ったじゃないですか～…
この事は誰にも言わないでください！
お客様の前でこんな姿に…
は、恥ずかしいですからぁ…」
「ひ、秘密にしてもらえるんですか
ありがとうございますお客様！
えっ…？そのかわりに…？
ええ～っ！？」

「そんなぁ、お、お客様困ります！
おっぱいでこんな事…っ
ひゃあぁ、近いい～っ…」
「ええ～っ！？し、舌で…
な、舐めるんですか！？
わ、わかりました…
うう…お、おっきい…」

「ぺろ…れろ、ちゅぱ…っ
ぷは…っ、どうしてこんな事に…
ぜ、全体を舐め回すんですか？
わかりましたぁ…べろん…んちゅ」
「ぷぁ…っ、乳首、らめれすぅ…
もう…許してくらひゃいい…
れろ…ちゅ、ぷゃ…
え、えぇ？出るって、ちょっと待っ……！」

「ぷやあっ！ひゃ、こ、こんなにたくさん、やぁあっ！」
「まだ出る、ふあっ…！と、とめてくだひゃいい～っ！」

「はぁはぁ、うう…酷いですう…
顔に出すなんて…うう…
こ、これで許していただけますか…？」
「えぇ～！
ゆ、許してもらえないんですかぁ！
どうすれば…？え…っ？
う、うう…はい、わかりました…」

「あっ、あっあっあっ！ふあっ！
お、おきゃく、さま、
も、もう許して…ください…っ
うあ、あ、あっ！」
「そん、な、激し…あっ
わた、し、壊れちゃ、いま、すう…っ
あ！あっ！あ！あ！あっ」

「あうっ！んうっう！う！ふっ
だめですう、いっイくっ、
イっちゃいます！
ごめんなさ、いっごめ、あ！
いっイきます、イきみゃひゅ！」
「ごめんなさいっごめ、ん、
な、あ、あっあっ！
んう、うっふっうっんっ…
ふううううんん～っ！！

「う…あっ！ふぁ！は…っ、けふっ…
お願い…です、この事は誰にも…
はぁ、はぁ…なんでも、お客様の言うこと、
ききますから…」
「わ、わかりました…私は、
お客様の従順なメイド、ですう
これからも、ずっと…」

「え？私と麻雀で勝負したいの？」
「ふふ♥いいけど…私、強いよ？」

「凄い！麻雀強いのね。
とうとう全部脱がされちゃった」
「私、強い人好きなの…。
ほら、してる間ドキドキしちゃって
こんなに…恥ずかしいな。
でも、あなただって…ふふ…」

「対局中、ずっとココおっきくしてたの、
知ってたんだから。
私が服を脱ぐの見て、こうなっちゃったの？」
ふふっ♥」
「凄いな…こんなに硬くしちゃって。
もう先っぽヌルヌル。ふふ。
ねぇ、こうすると…
オチンチン気持ち良い？」

「え？出そう？もう？
ダメ。我慢して。
まだ始めたばかりなんだから」
「ほら…頑張って？
クチュクチュクチュ♥
エッチな音…。ふふ♥」

「きゃ！ん、ぷあっ…！
出しちゃダメって、言ったのにぃ」
「やん、
まだ出る…すごい…♡」

「ふう…やっと止まったね。
麻雀はあんなに強いのに早漏だなんて…
少しガッカリかな？」
「もう、そんな顔しないで。
せっかちな
早上がりオチンチンでも
連荘は出来るでしょ…？」
ほら…また硬くなって
来ちゃった♥ふふ♥」

「ほら…入っちゃったよ？
あなたのオチンチン、全部…私の中に。
今度はすぐピュってしないでね？」
「あん…♡ふふっ。
したかったんでしょ？私と
私だって、対局中ずっと…。
あ、ふぁ、素敵…」

「あっ！あ♡あん♡素敵、
気持ちい…ふぁ♡
ねえ、あなたも気持ちいい？
ふふっ…あ♡」
「あ！イく♡イくよ？あなたもイッて
いいよ♡出して、中に、あ、あっあっ♡
…んく…っ！ふああ…ッ！！」

「はぁ、はぁ…はぁ…うふふ♡
イッちゃったぁ…。
あなたも…ふふ、いっぱい出したね…」
「でも、まだできるよね？
こんなんじゃ許さないんだから。
ね、このままもう一回…♡」